

交差点 110号

発行：札幌市交通安全運動推進委員会
令和7年12月

まだ行ける？ いいえ黄色は もう止まれ

文部科学大臣賞

反射材 わたしとかがやく 夜の道

警察庁長官賞

「令和7年使用交通安全年間スローガン」（全日本交通安全協会・毎日新聞社）より

冬の交通安全について保護者の皆さんへ

もうすぐ、子どもたちが楽しみにしている冬休みがやってきます。

雪遊びやウインターポート、また、ご家族での外出など屋外で活動する機会が多くなることだと思います。

路面の凍結や圧雪による車のスリップ事故や、積雪のため道路の見通しが悪くなるなど、子どもを巻き込んだ交通事故の危険性が高まる時期もあります。

子どもたちが悲惨な交通事故に遭うことなく、冬休みを安全に楽しく過ごせるよう、日頃から交通安全についてご指導いただきますようお願いいたします。



札幌市内における中学生以下の交通事故実態

令和6年1月～12月の死者数 1人（前年比：+1人）

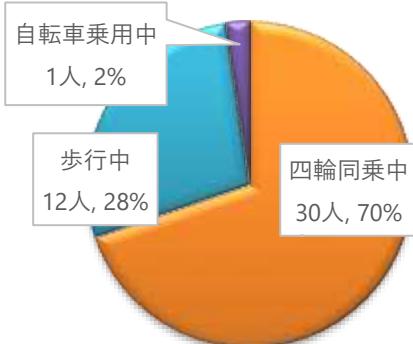
負傷者数 205人（前年比：-31人）

冬期間（令和6年12月～令和7年2月）の死者数 0人（前年比：±0人）

負傷者数 43人（前年比：-18人）

中学生以下の状態別負傷者数（令和6年12月～令和7年2月）

※グラフ中の%は小数点以下を四捨五入しています。



冬の交通事故を状態別で見ると、四輪同乗中の負傷者数が30人と、全体の約7割を占めました。冬道は路面の凍結や圧雪など、タイヤがスリップしやすい状況となります。子どもたちを交通事故から守るため、ドライバーはスピードダウンを心掛けて安全運転に努めましょう。シートベルトは全席着用を徹底しましょう。

また、夜間や薄暮時間帯は、ドライバーが歩行者を発見しにくい状況になります。歩行中の交通事故を防ぐため、持ち物に夜光反射材を活用するなど目立たせる工夫をしましょう。

冬の交通安全指導のポイント

●自転車に乗らない

冬道は積雪や路面凍結により滑りやすく、自転車の利用は大変危険です。
冬期間は自転車を利用しないようにしましょう。

●道路わきの雪山に登らない

誤って道路に滑り落ちる危険があります。道路の近くで遊ばないように指導しましょう。
また、雪山のかけから飛び出さないよう注意しましょう。

●時間に余裕をもって行動する

車は急に止まることができません。左右をよく見て、焦らず横断させましょう。
また、冬道では転倒の可能性が高くなりますので、信号は余裕をもって渡るようにしましょう。

●夜光反射材や、目立つ色の服を着用する

冬期間は暗くなるのが早いので、ドライバーから子どもが見えやすくなるよう、夜光反射材を身に付けさせましょう。また、明るい色の服装で、雪の中でも目立つようにしましょう。



シートベルトは全席着用！

車に乗るときは、大切な命を守るために全ての座席で必ずシートベルトを着用しましょう。

運転する方は、同乗者の命を預かっているという意識を持って、後部座席を含め全席のシートベルト着用を確認しましょう。



* * * 交通事故にあわないために * * *

道路をわたる前



車が来ないか



車の音を



車が通り過ぎるまで



凍結路面で車が滑り、飛び出しつくることがあるので注意！

雪山で見通しが悪くなるので注意！

雪が音を吸収して聞こえにくくなるので注意！

車は急に止まれません。
安全をしっかり確認！